

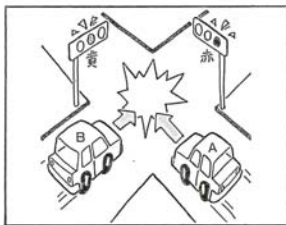
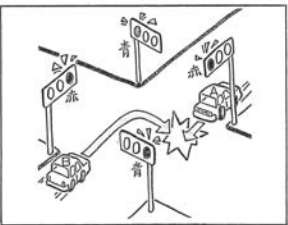
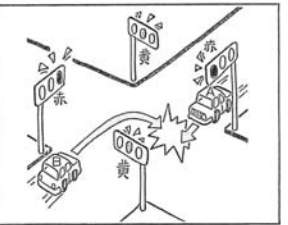
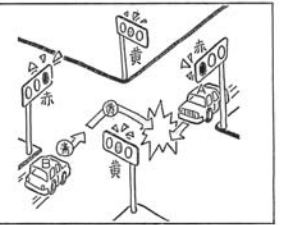
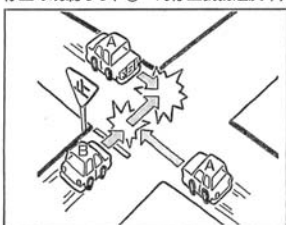
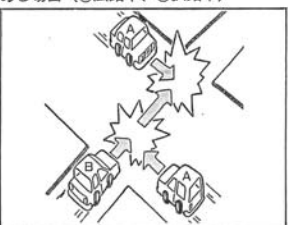
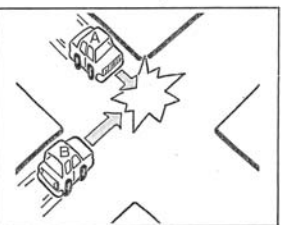
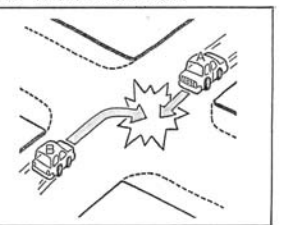
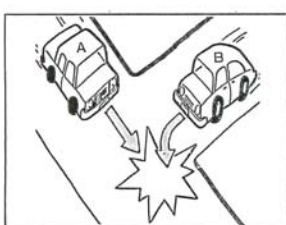
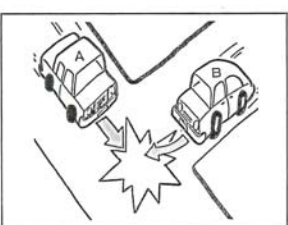
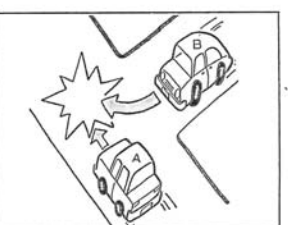
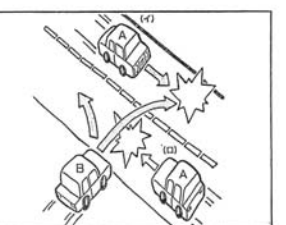
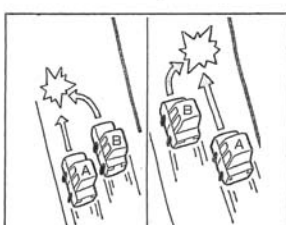
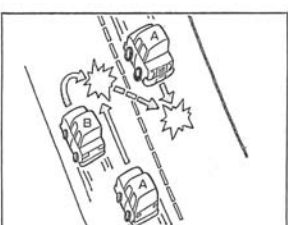


## 事故と過失責任の代表例

### ■「過失相殺」とは

事故についての損害を加害者と被害者が公平に分担するために被害者にも過失(不注意)がある場合、加害者の損害賠償額を被害者の過失に応じて減額することになっています。

このように、お互い過失の程度(過失割合)によって、損害の負担を公平に行うことを、「過失相殺」といいます。

### ■下記は車対車の「代表的事故16図」です。

<p>黄信号車Ⓐと赤信号車Ⓑとの事故</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ20 : Ⓑ80</p>	<p>ⒶⒷとも青信号で進入した場合</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ30 : Ⓑ70</p>	<p>ⒶⒷとも黄信号で進入した場合</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ40 : Ⓑ60</p>	<p>Ⓐ黄信号で進入・Ⓑ青信号で進入、黄信号で右折した場合</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ70 : Ⓑ30</p>
<p>一方に一時停止標識のある場合 (Ⓐ一時停止の規制なし、Ⓑ一時停止義務違反車)</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ20 : Ⓑ80 (AB同程度の速度)</p>	<p>一方が明らかに広い道路又は優先道路である場合 (Ⓐ広路車、Ⓑ狭路車)</p>  <p style="text-align: center;">広路 Ⓐ30 : Ⓑ70 (AB同程度の速度) 優先道路 Ⓐ10 : Ⓑ90</p>	<p>同幅員の交差点 (左方車Ⓐ・右方車Ⓑ)</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ40 : Ⓑ60 (AB同程度の速度)</p>	<p>ほぼ同幅員の場合と直進路が広路・幹線道路、右折路が狭路等の場合</p>  <p style="text-align: center;">同幅員 Ⓐ30 : Ⓑ70 広路等 Ⓐ20 : Ⓑ80</p>
<p>T字型交差点事故①</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ40 : Ⓑ60</p>	<p>T字型交差点事故②</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ30 : Ⓑ70</p>	<p>T字型交差点事故③</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ20 : Ⓑ80</p>	<p>路外から車両が右(左)方に進入する場合</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ20 : Ⓑ80</p>
<p>割り込み事故</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ30 : Ⓑ70</p>	<p>Ⓑが転回中に衝突した場合</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ20 : Ⓑ80</p>	<p>直進単車と先行左折四輪車との事故 (単車運転者が負傷した場合)</p>  <p style="text-align: center;">Ⓐ20 : Ⓑ80</p>	<p>渋滞中の車両間の事故 (単車運転者が負傷した場合)</p>  <p style="text-align: center;">左側の余地が広い Ⓐ30 : Ⓑ70 上記以外 Ⓐ40 : Ⓑ60</p>

### ■ 損害の大きさが異なるので、こんなことも有ります。

ご自分の貨物車の損害が10万円、相手の乗用車が50万円の場合、上表「T字型交差点」の「出会い頭事故」では、Ⓐご自分の過失割合20%、Ⓑ相手の過失割合80%にあてはめると、ご自身のⒶは相手損害40万の20% = 10万円の支払い責任が発生することに対し、相手Ⓑからは自分の損害10万の80% = 8万円の賠償になります。(Ⓑは自らの損害50万 - 10万 = 40万を自己負担)

この様に、例え、ご自分の過失割合が少なくても、双方の損害次第で、相手への賠償額が大きくなる場合が有ります。

## 《 過失相殺に関する法律 》

### ■ 過失相殺「民法第722条」

被害者に過失があるときは、裁判所は損害賠償の額を定めるにあたり、これを考慮できる。

### ■ 左方優先「道路交通法第36条」

車両等は、交通整理の行われていない交差点においては、次項の規定が適用される場合を除き、次に掲げる区分に従い、当該各号に掲げる車両などの進行を妨害してはならない。

第1項、車両である場合、その通行している道路と交差する道路（以下「交差道路」という。）を左方から進行してくる車両及び交差道路を通行する路面電車。

### ■ 優先道路「道路交通法第36条」

第2項、車両等は、交通整理の行われていない交差点においては、その通行している道路が優先道路（道路標識等により優先道路として指定されているもの及び当該道路における車両の通行を規制する道路標識等による中央線又は車両通行帯が設けられている道路をいう。以下同じ。）である場合を除き、交差道路が優先道路であるとき、又はその通行している道路の幅員よりも交差道路の幅員が明らかに広いものであるときは、当該交差道路を通行する車両等の進行妨害をしてはならない。

第3項、車両等（優先道路を通行している車両等を除く）は、交通整理の行われていない交差点に入ろうとする場合において、交差道路が優先道路であるとき、又はその通行している道路の幅員よりも交差点の幅員が明らかに広いものであるときは、徐行しなければならない。

### ■ 交差点右折「道路交通法第37条」

車両等は、交差点で右折する場合において、当該交差点において直進し、又は左折しようとする車両等があるときは、当該車両等の進行妨害をしてはならない。

### ■ 一時停止「道路交通法第43条」

車両等は、交通整理の行われていない交差点又はその手前において、道路標識等により一時停止すべきことが指定されているときは、道路標識等による停止線の直前（道路標識等による停止線が設けられていない場合であっては交差点の直前）で一時停止しなければならない。この場合において、当該車両等は、第36条第2項の規定に該当する場合の他、交差道路を通行する車両等の進行妨害をしてはならない。

### ■ 徐行義務「道路交通法第42条」

車両等は、道路標識等により徐行すべきことが指定されていると道路の部分を通行する場合及び次に掲げるその他の場合においては、徐行しなければならない。

第1項、左右の見通しがきかない交差点に入ろうとし、又は交差点内で左右の見通しがきかない部分を通行しようとするとき。（当該交差点において交通整理が行われている場合及び優先道路を通行している場合を除く）

第2項、道路のまがりかど付近、上り坂の頂上付近又は勾配の急な下り坂を通行するとき。

### ■ 最高速度「道路交通法施行令第11条」

その他の道路では、政令で定める最高速度を超えてはならない。